

社会、地理歴史、公民における 目標及び新たな「見方・考え方」 について

議題 1

目標及び新たな「見方・考え方」の在り方について

- 前回WGにおける意見を踏まえた社会科等の教科・分野・科目等の「目標」、
「知識及び技能」、
「思考力、判断力、表現力等」、
「学びに向かう力、人間
性等」、
新たな「見方・考え方」の修正案について、どのように考えるか。

1. 基本的な考え方

- 各科目の背景にある学問的な知見に基づく社会的現象に関する概念を理解し、確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、資料や概念に基づき、課題発見・解決できる力や自らの考えを批判的に捉え直す力を養うことによって、民主的で持続可能な社会の創り手を育成する。
- 見やすさや分かりやすさを踏まえた改善を図るため、箇条書き等により、できるだけ簡潔な表記で示すこととする。

2. 柱書

- 教育基本法等の理念を踏まえつつ、骨格は引き続き小中高등학교を通じて共通のものとした上で、発達段階を踏まえた表現としてはどうか。
- 現行の「グローバル化する国際社会」という記載については、近年の状況を踏まえれば、所与の前提となっている一方で、将来社会を見据えた際に、地域社会から国際社会まで（地域・国・世界）含めて、よりよい社会の形成が一層求められていることを踏まえて、記載を見直してはどうか。また、「主体的に生きる」ことについても、より多様な他者と「協働的に」生きることが求められることを踏まえて、あわせて記載を見直してはどうか。その際、教科の目標であるという位置付けを踏まえ、できるだけ端的な表現としてはどうか。

3. 知識及び技能

- 知識及び技能の深い意味理解を促す観点から、社会的現象に関する概念の理解を重視する方向で見直してはどうか。
- その際、ここでの概念の理解とは、学習する知識を統合して到達する理解、すなわち、指導における単元（内容のまとまり）の知識の獲得目標となるものと捉えることとしてはどうか。
- 真偽が定かではない多様な情報が行き交う社会において、調査や諸資料から収集した情報の信ぴょう性を確認することを重視する観点から、発達段階も踏まえ、小中学校においては、「確かな」情報に基づき、「適切かつ」効果的に調べまとめる技能を身に付けること、高等学校では、批判的に情報を扱う視点をより一層重視し、「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる技能を身に付けることとする方向で見直してはどうか。

4. 思考力、判断力、表現力等

- 社会科等の学習過程の特質として、教科目標において「課題を追究したり解決したりする活動」を通して、資質・能力を育成することが明記されている中で、より一層深い学びを具現化する観点から、自らの考えを批判的に捉え直す力の観点を追記する方向で見直してはどうか。

5. 学びに向かう力、人間性等

- 「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」、「他者との対話や協働」、「学びの主体的な調整」に関する観点を追記してはどうか。

社会科等の新たな「見方・考え方」の在り方について①

1. 前回改訂時の整理

- ・ 現行学習指導要領における「見方・考え方」は、前回の改訂において「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会とをつなぐもの」とされた。
- ・ 社会科等においては「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法」と整理された。

2. 今回の改訂に向けた方向性

- ・ 教育課程企画特別部会の論点整理では、「見方・考え方」の側面①「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」（高次の資質・能力）による資質・能力の構造化によって一層具体的に示し、**新たな「見方・考え方」は、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化してより端的に示していく**こととする方向で検討すべきこととされた。
 - ・ 社会科等においても、**新たな「見方・考え方」を、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」として、よりよい社会や幸福な人生を送る上で必要となる資質・能力と関連づけて位置付ける。**
- ※ その際、社会科等における教科等の学びの本質は、教科等において主として用いられている学術的知見の基礎にある視点や概念、理論を示すことで、教科・科目等の学びの特色を示すものとし、分野・科目ごとに示すこととする。
- ・ 一方、従前の「見方・考え方」で示していた**側面①「各教科等の学びの深まり」を促す事項については、高次の資質・能力の中において構造化の中で内容に即して具体的に示す。**

3. 社会科等における捉え方

- ・ 従前の「見方・考え方」として、小学校社会科では「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」としていた。
このうち、「社会的事象」は社会科が扱う事象や対象を示すものであり、学ぶ**「対象」と位置付けられる。**
また、「位置や空間的な広がり」等については、学ぶ上で着目すべき当該教科等の固有の物事を捉える**「視点」と位置付けられる。**
さらに、「比較・分類したり」等については当該教科等の固有の考え方や判断の仕方として**「方法」と位置付ける**ことができる。
- ・ **新たな「見方・考え方」においては、本質的な意義を端的に示す観点から、「対象」と抽象的な「視点」と「方法」を示すこととし、「高次の資質・能力」においては、具体的な「視点」と「方法」は一体的に記載することとする。**
- ・ その際、従前、社会科等において「見方・考え方」として扱っていた事項は、既に現場においても広く浸透していることを踏まえ、新たに高次の資質・能力に位置付ける「学びの深まり」を示す要素を呼称する際には、継続性を確保する観点から例えば、「**社会的な視点や方法等**」として呼称することとしてはどうか。（その際、「社会的な視点や方法等を働かせて（または「用いて」）」といった表現で表すこととしてはどうか。）

社会科等の新たな「見方・考え方」の在り方について②

4. 見直し案の考え方

(1) 当該教科で扱う事象や対象

- 現実社会では、社会的事象に加え、「事象」を表象するものとして「言説」も含め、多様な情報が混然一体として存在するものであることから、「**社会的事象や言説**」として**整理**してはどうか。

※表象としての「言説」はあくまでも思考の契機であり、実際には「事象」との関連の中で扱うべきものであることに留意。

※「事象」と、その事象についての多様な表現である「言説」は、同次元ではないことを前提とする。

(2) 当該教科固有の物事を捉える視点

- 地理、歴史、公民の各分野固有の**抽象的な「視点」**として、高次の資質・能力との違いも踏まえつつ、下表（新たな「見方・考え方」）のとおりに整理してはどうか。

（見方・考え方）

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

(3) 当該教科固有の考え方や判断の仕方

- 新たな「見方・考え方」では、各教科等の資質・能力が身につく中で、様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生につなげていけること示すこととされている。
- このことに加え、社会科等においては、社会的事象や言説について、様々な視点から課題を考え、確かな根拠に基づいて公正に判断することが重要であることから、新たな「見方・考え方」では、「**よりよい社会の形成**」に向けて課題を「**多面的・多角的**」に考えるとともに、**確かな根拠に基づき、「公正に判断」**することとして整理してはどうか。

※なお、新たな「見方・考え方」は、本質的な意義の中核を示すものであり、学習活動における直接の評価対象になるものではない。

	地理	歴史	公民
新たな「見方・考え方」	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること ※公民は中学校公民的分野
高次の資質・能力	<p><視点> 位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容など ※地理教育国際憲章1992.8月において示されている、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域に関わる視点を地理学習の実態に合わせて修正</p> <p><方法> ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載</p>	<p><視点> 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響など</p> <p><方法> ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載</p>	<p><視点> 対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換など ※上記のほか、個人の尊重と法の支配、民主主義など内容によって異なる</p> <p><方法> ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載</p>

現行の記載

- 側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

<地理>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 位置や空間的な広がり
- 地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
 - 場所に関わる視点（自然的、社会的など）
 - 人間と自然の相互依存関係に関わる視点（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
 - 空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性 など）
 - 地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性 など）

<歴史>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 時期、推移など
- 類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 時系列に関わる視点（時期、年代など）
 - 諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
 - 諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
 - 事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響など）

見直し案

- 新たな「見方・考え方」については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化**。
- 高次の資質・能力**については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す**こととしてはどうか。

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係など
- よりよい社会の形成に向けて課題を**多面的・多角的に**考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

<視点>

- 位置や分布（**地域の空間的な広がり**に関わる視点）
- 人間生活と自然環境との関係（**地域の環境**に関わる視点）
- 地域間の結び付き（**地域の空間的な広がり、地域間の関係**に関わる視点）
- スケール（**地域の空間的な広がり、地域間の関係**に関わる視点）
- 変容（**地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係**に関わる視点）

<方法>

※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 時系列、推移、類似や差異、**因果や現在とのつながり**など
- よりよい社会の形成に向けて課題を**多面的・多角的に**考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

<視点>

- 時期や年代（**時系列**に関わる視点）
- 展開や変化（諸事象の**推移**に関わる視点）
- 共通点や相違点（過去の歴史との**類似や差異**に関わる視点）
- 背景や原因、結果や影響（**因果**に関わる視点）

<方法>

※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

【小学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案）

目標

下線：現行からの変更点 黄色ハイライト：前回WGからの修正点

柱書			
主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 <u>よりよい社会の形成に向けて</u> 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する<u>学習</u>を通して社会生活に関する<u>概念</u>について理解する。 様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を<u>養う</u>。 考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を<u>養う</u>。 自らの考えを<u>批判的</u>に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、よりよい社会を考え見通しを立てたり、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を<u>養う</u>。 多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

※学年別目標の在り方について

- 小学校の学年別目標については、総則・評価特別部会の議論において、表形式化に当たり、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「統合的な発揮」との関係性において内容を整理することとされたことを踏まえて、提示しないこととはどうか。（p16-17参照）

見方・考え方

- 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【中学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案）

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点 黄色ハイライト：前回WGからの修正点

中学校	社会科	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 よりよい社会の形成に向けて 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	地理的分野	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 よりよい社会の形成に向けて 地理に関する 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	歴史的分野	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 よりよい社会の形成に向けて 歴史に見られる 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	公民的分野	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 よりよい社会の形成に向けて 現代社会に見られる 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力を養う。 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養う。 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する。 諸資料から歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。
	公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深める。 諸資料から現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら解決を視野に主体的かつ協働的に社会に関わろうとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

- 【**地理的分野**】社会的事象やその言説を、**地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係**などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を**多面的・多角的に**考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【**歴史的分野**】社会的事象やその言説を、**時系列、推移、類似や差異、因果や現在とのつながり**などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を**多面的・多角的に**考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【**公民的分野**】社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を**多面的・多角的に**考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・地理歴史科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案）

目標

柱書 青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点 黄色ハイライト：前回WGからの修正点

高等学校	地理歴史科	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 よりよい社会の形成に向けて 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	地理総合、地理探究	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 よりよい社会の形成に向けて 地理に関する 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	歴史総合、日本史探究、世界史探究	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 よりよい社会の形成に向けて 歴史に見られる 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
高等学校	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	地理歴史科	<ul style="list-style-type: none">現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。調査や諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none">地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力を養う。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<ul style="list-style-type: none">地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理総合	<ul style="list-style-type: none">地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none">地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<ul style="list-style-type: none">地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
	地理探究	<ul style="list-style-type: none">地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none">地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<ul style="list-style-type: none">地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
	歴史総合	<ul style="list-style-type: none">近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。諸資料から収集した歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none">近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<ul style="list-style-type: none">近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	日本史探究	<ul style="list-style-type: none">我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。諸資料から収集した我が国の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none">我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<ul style="list-style-type: none">我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
世界史探究	<ul style="list-style-type: none">世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。諸資料から収集した世界の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none">世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<ul style="list-style-type: none">世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	

見方・考え方

- 【地理総合、地理探究】・社会的事象やその言説を、**地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること**
- 【歴史総合、日本史探究、世界史探究】・社会的事象やその言説を、**時系列、推移、類似や差異、因果や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること**

【高等学校・公民科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案）

目標

柱書 青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点 黄色ハイライト：前回WGからの修正点

高等学校	公民科	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 よりよい社会の形成に向けて 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	公共	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 よりよい社会の形成に向けて 現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	倫理	広い視野に立ち、 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて 、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 よりよい社会の形成に向けて 現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	政治・経済	広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 よりよい社会の形成に向けて 現実社会に見られる複雑な諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	公民科	<ul style="list-style-type: none"> 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解する。 諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題について、事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	公共	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 諸資料から収集した、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	倫理	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 諸資料から収集した、人間としての在り方生き方に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
	政治・経済	<ul style="list-style-type: none"> 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する。 諸資料から収集した、社会の在り方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、考察するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

見方・考え方

- 社会的な事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を**多面的・多角的に**考え、根拠に基づき公正に判断すること

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ（案） <教科科目・分野一覧>

黄色ハイライト：前回WGからの修正点

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 （地理的分野）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 （地理総合、地理探究）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	
中学校社会 （歴史的分野）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 （歴史総合、日本史探究、世界史探究）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
中学校社会 （公民的分野）	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 （公共）	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 （倫理）	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	<div>（見方・考え方）</div> <div>●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。</div>
高等学校公民 （政治・経済）	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	

柱書

小学校

社会科

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

小学校
社会科

地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

(参考) 現行の中学校学習指導要領 社会科の目標

柱書

青字：教科目標との相違点

中学校	社会科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		
	地理的分野	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		
	歴史的分野	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		
	公民的分野	現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようすることの大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。
	公民的分野	個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

(参考) 現行の高等学校学習指導要領 地理歴史科の目標

柱書

青字：教科目標との相違点

高等学校	地理歴史科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	地理総合・地理探究	社会的 事象の地理的 な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	歴史総合・日本史探究・世界史探究	社会的 事象の歴史的 な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	地理歴史科	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理総合	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 地理的な課題の解決に向けて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に そこで見られる課題を主体的に追究 、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、 世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする ことの大切さについての自覚などを深める。
	地理探究	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して 、 系統地理的、地誌的に 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 地理的な課題の解決に向けて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に そこで見られる課題を主体的に探究 しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、 世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする ことの大切さについての自覚などを深める。
	歴史総合	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に 追究 、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の 歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	日本史探究	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、 伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に 探究 しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	世界史探究	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に 探究 しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(参考) 現行の高等学校学習指導要領 公民科の目標

柱書

青字：教科目標との相違点

高等学校公民	公民科	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	公共	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	倫理	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	政治・経済	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校公民	公民科	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	公共	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	倫理	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
	政治・経済	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式（1）

令和7年10月14日
総則・評価特別部会
資料 1 - 1 より

1. 内容の表形式化を行う趣旨・目的

- 論点整理では、分かりやすく使いやすい学習指導要領の実現を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実装を図る観点から、学習指導要領の内容について、中核的な概念等をもとに表形式で構造化を図る方針を示している
- 具体的には、
 - ①「知・技」「思・判・表」(※1)の深まりの可視化（「タテ」の関係の可視化）、
 - ②「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化（「ヨコ」の関係の可視化）により、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する教師の単元づくり(※2)を助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくすることを目指すとしている
(※1)「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を指す。以下同じ。
(※2) 題材づくりを含む。以下同じ。
- 総則・評価特別部会として、論点整理の趣旨を具現化する表形式での構造化の在り方を検討し、各教科等WGでの検討に資するよう、具体的に示す必要がある

2. 内容の表形式化の具体的な考え方（「並列」パターン）

- 1. で示した趣旨を具体化する表形式を考える際、「タテ」の関係を可視化するには、個別の「知・技」「思・判・表」それぞれについて、児童生徒の中で相互に関連付けられ、構造化されて深い理解や習得に至った際の資質・能力の姿を示すことが重要となる。また、「ヨコ」の関係を可視化するには、「知・技」に対応して一体的に育成を目指す「思・判・表」を並列して記載することが考えられる
- これらを表形式で表現すると、以下のようなイメージが考えられる

中核的な概念の深い理解（仮称） XXXXXXXXXXXXXXXXXX	複雑な課題の解決（仮称） XXXXXXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXXX ・XXXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXXX ・XXXXXXXX

- 一方、今回の構造化は、現行の「主体的・対話的で深い学び」の実装を図るものであることから、新たな用語の提起には慎重であるべきとの指摘もあり、現行との連続性を感じられる書きぶりとすることが重要。これを踏まえ、可能な限り現行で既に用いられている言葉を使いつつ構造化を図る観点から、以下のような示し方とすることが考えられないか

知識及び技能に関する 統合的な理解 XXXXXXXXXXXXXXXXXX	思考力、判断力、表現力等の 総合的な発揮 XXXXXXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXXX ・XXXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXXX ・XXXXXXXX

2. 内容の表形式化の具体的な考え方(「並列」パターン) (続き)

- このような示し方をする場合、学年区分の在り方も課題となる。現行では、各教科等の内容は、①学年別に示しているもの、②複数学年別に示しているもの、③指導する学年を示していないものがあり、①及び②については、指定する学年での指導を求めているほか、学年別目標も示している
- この点、上記のような構造化を行った場合、「統合的な理解」「総合的な発揮」にぶら下がる個別の「知・技」等が複数学年にまたがる場合も考えられる。その場合、引き続き学年毎に内容を示すこととすると、同じ「統合的な理解」「総合的な発揮」にぶら下がる資質・能力であっても学年毎に分断して示されることとなり、資質・能力の深まりを体系的に理解することに課題が残る
- また、論点整理では、教科書作成等の観点から引き続き学年区分の一定の記載は必要だが、多様な子供の実態に応じるため学年区分に囚われず柔軟に教育課程の編成・実施が可能であることを明確にすべきとされている



- これらを踏まえ、表形式化に当たっては、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとし、指導を想定する学年を明示する場合も、それに囚われず教育課程の編成が可能であることが分かるよう、例えば「○学年相当」という形式で示してはどうか(次頁のイメージ参照)
- こうした指導を想定する学年の記載については、各教科の性質や学校種・発達段階に応じて、1学年毎に示すのが適切と考えられるもの、低・中・高学年など複数学年でまとめて示すのが適切と考えられるもの、示さないことが適切と考えられるものなど様々な場合が考えられるため、柔軟に記載を検討していくことが必要ではないか



「見方・考え方」の現在の位置付け

- 前回改訂では、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、これからの社会で生きていくための資質・能力を身に付けるための学びの過程として「主体的・対話的で深い学び」を提起した
- 一方、「主体的・対話的で深い学び」だけでは、
 - ① 各教科等の深い学びの具体的な姿がイメージしにくい
 - ② 各教科等の学びにより、人生や社会との関わりがどう豊かになるのかイメージしにくい 等の懸念が生じた

このため

- 資質・能力と教科等の学びを架橋するため、「見方・考え方」を提起し、各教科等の目標の一部として位置付けた（詳細は解説で記載した）

【定義】どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかというその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方

- 上記①②に対応し2つの側面で説明されてきており、授業改善に一定の成果があったといえる

側面① 各教科等の学びの深まりを示す

教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることで深い学びが実現され、よりよく資質・能力を育成でき、資質・能力の育成により「見方・考え方」が一層豊かになる

側面② 各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す

学びを通じてどのような教科等固有の世の中を見る視点や考え方が身につくのかを示すことにより、教科等を学ぶ本質的な意義を明らかにし、学びをよりよい社会や幸福な人生に繋げていく役割がある



課題と方向性

令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理 P 20

1. 当初の役割を十分に果たせていない

- 見方・考え方は各教科等の目標の一部になっているが、その具体は、解説を読まないと分からない
- 教科等によっては解説の記載が複雑かつ抽象的で分かりにくい（「見方・考え方」が①「各教科等の学びの深まり」と②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」という2つの側面を有していることも影響）

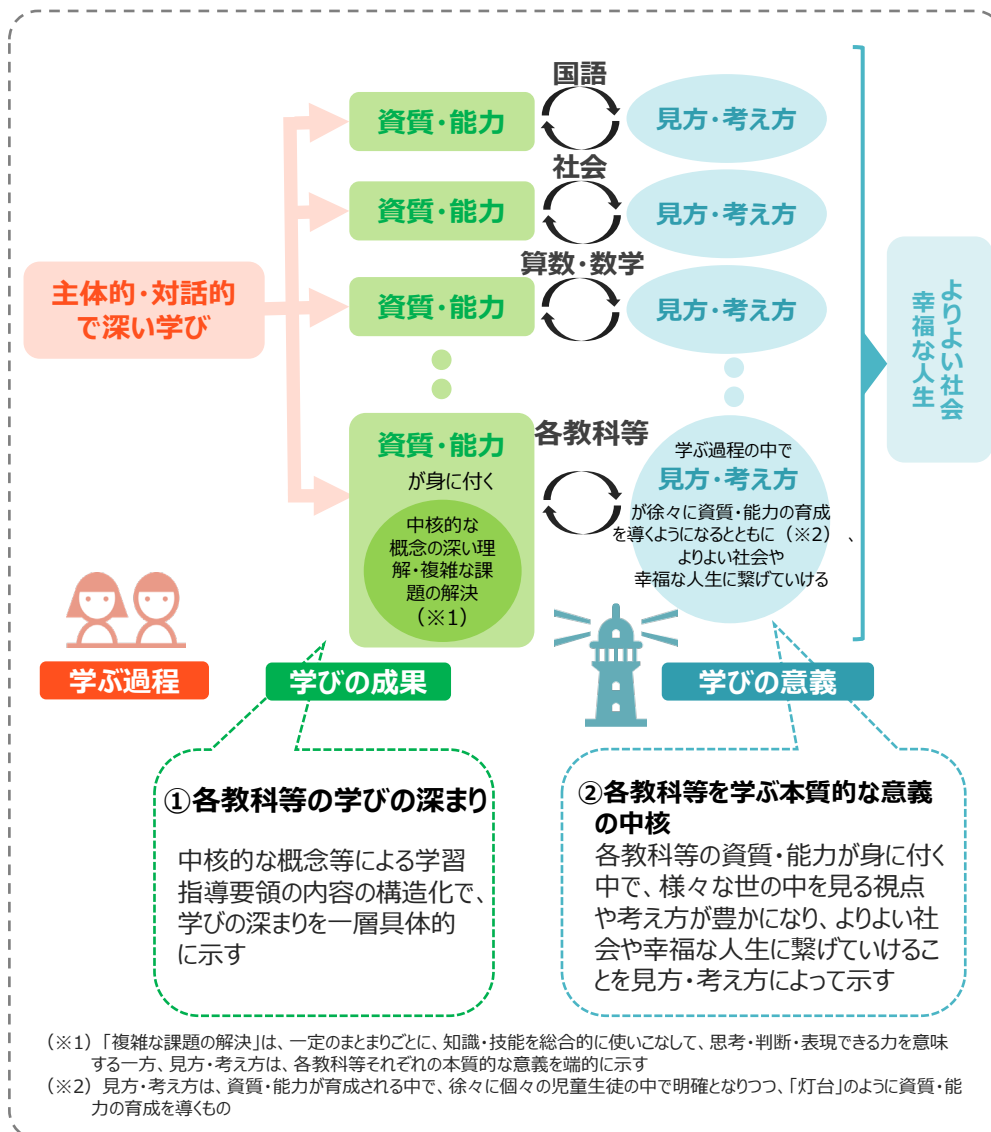
2. 「中核的な概念等」との整理が必要

- 第2・3回の特別部会では、各教科等の「中核的な概念等」の視点から
 - (1) 個別の知識及び技能が相互に関連づけられた「教科の主要な概念の深い理解」
 - (2) 個別の思考力、判断力、表現力を総合的に働かせた「複雑な課題の解決」を抽出し、一層の構造化を図ることとした
- この方針で進める場合、「見方・考え方」（とりわけ側面①各教科等の学びの深まり）との重複感が出る

これらを踏まえると

- 「見方・考え方」の側面①「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」による資質・能力の構造化によって一層具体的に示し、
- 「見方・考え方」自体は、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化してより端的に示していくこととする方向で検討すべき

今後の見方・考え方の役割の改善イメージ



改善イメージ

目標

～以下の資質・能力を育成することを目指す。
（目標での見方・考え方の記載ぶりは別途検討）

（例）事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して
捉え、論理的、統合的・発展的に考える

知・技

思・判・表

学・人

②本質的意義

教科の本質的な意義に焦点化して端的に示すことで教科を学ぶ本質的な意義を分かりやすく本則上で示すことができる

内容

中核的な概念の
深い理解（仮）

複雑な課題の解決
（仮）

①学びの深まり

学びの深まりは
中核的な概念
等による構造化
の中で、内容に
即して具体的に
示す

（例）関数を使えば未知の状況を予測できる

知・技

（例）比例・反比例の理解、一次方程式の解き方

（例）現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

思・判・表

（例）二つの数量の変化・対応関係を見出し、式やグラフを用いて考察する

※従前の見方・考え方の整理は、見方・考え方が資質・能力の一部と誤解される遠因となっていたことから改善を図り、見方・考え方は、資質・能力（中核的な概念等を含む）の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋がっている学びの本質的な意義として整理する

検討項目① 見方・考え方

令和7年10月14日
総則・評価特別部会
資料1-1 P3
(会議意見反映版)

1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

【現行】各教科等の目標の柱書（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働かせ（見方・考え方）、言語活動を通して（学習過程）、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す

【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

<現行の記述ぶりの課題>

- 現在、各教科等の目標の柱書には、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載されており、冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないで分からない。

<論点整理で示されたこと>

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく、「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」ものと位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく、使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

（目標）

- ● する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、● ● することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）

- ● （当該教科で扱う事象や対象）を● ● （当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、● ● （当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

（見方・考え方に含める要素）

- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
 - ① 当該教科等が扱う事象や対象
 - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
 - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により、教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

（見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか（学習・指導を通じて、最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意）